

区の評価及び意見について

【 城東区】 (受託者:一般財団法人 大阪市コミュニティ協会)

1 地域活動協議会の状況についての分析(年度当初)

項目		受託者の分析に対する評価及び意見
自律的運営に向けた地域活動協議会の取組(イメージ)	(1)「Ⅰ 地域課題への取組」についての分析	<ul style="list-style-type: none"> ・人口増加は、現在落ち着いているが、まとまった土地があればマンションが建設されており、人口増と減の地域がはっきりしてきている。マンション建設が多い地域は子どもが多く、少ない地域では高齢化が進んでおり、地域ごとの違いや特性に応じた支援策を検討する必要がある。 ・全般的に高齢化が進んでいることから見守り事業などの福祉事業、また住民の関心が高い防災事業の充実に力を入れて取り組むとしている点は区の意見と一致している。
	(2)「Ⅱ つながりの拡充」についての分析	<ul style="list-style-type: none"> ・広報については、SNSを活用した広報を補完するものとして、とりわけ高齢者向けとして紙ベースの広報紙は必要であり、今年度中に全地域での発行を達成されたい。 ・構成団体の状況では、「学校や福祉施設」との連携は進んできているものの、「企業・事業者」や「NPO等非営利団体」とは少なく、新たな人材発掘のため、より広範な参加参加が求められる。
	(3)「Ⅲ 組織運営」についての分析	議決機関(総会・運営委員会)は適切に開催されているが、意思決定された議事録や収支決算報告書の公表をSNSや広報紙で行うなど、情報をオープンにして地活協の活動が誰にでもわかるようにすることで、より多くの担い手が集まると考える。
	(4)「Ⅳ 区独自取組」についての分析 <small>(区が「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組(イメージ)」において設定したものを)</small>	新たな取り組みをしようとしている点は評価するが、「認知症カフェ」「子ども食堂」は、「まず、やる」ところから始めると目的が変わってくるので、対象を明確にしてから進める必要がある。

2 事業の実施内容(支援策(取組)の内容)

項目		提案内容に対する評価及び意見
自律的運営に向けた地域活動協議会の取組(イメージ)	(1)「Ⅰ 地域課題への取組」にかかる支援の提案内容	「情報交換会」の実施は、各地域で力を入れて取り組んでいるテーマや手法について、そのノウハウや工夫している点を発表し、他の地域がそれを参考にして他の地域の良いところを取り入れ、理解しようというもので、各地域活動協議会によって自発的に行われている事業であり、他の事業のように区役所からの「やらされ感」がないことから、地域活動協議会相互の交流につながることを期待されるなど、重要な取り組みであると考えます。
	(2)「Ⅱ つながりの拡充」にかかる支援の提案内容	広報に力を入れて取り組みを進めてきた成果として、各事業の参加者数が増えてきたという報告もあり、地域内のあらゆる人に地活協の活動を知らせ、関わりを持ちたい人を引きつける事は新たな担い手づくりのうえでも重要であると考えている。今後、より多くの人に継続して見ていただけるよう、内容や作成のスキルの向上が図れる支援を行うことが必要と考える。
	(3)「Ⅲ 組織運営」にかかる支援の提案内容	開かれた組織運営を進めていくため、会議運営での支援とその結果を情報発信することは大変重要であり、企画提案内容は的を射ていると考える。

イ メ ー ジ ー ル	(4)「IV 区独自取組」にかかる支援の提案内容 <small>(区が「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組(イメージ)」において設定したもの)</small>	収益事業を行うことに対する地域の反発はまだまだあり、趣旨を十分理解できるように勉強会の開催は有効であり、身近な内容から進めることにより、やらされ感が無いように進めようとしていることは当区の実態と合っている。
----------------------------	--	---

3 事業の実施体制等

項目	提案内容に対する評価及び意見
(1)自由提案による地域支援の提案内容 <small>(企画提案書(事業計画書)等で受託者が提案したもの)</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動に取り組んだ成果が期待される。 ・各部会ごとの会議開催は、テーマが共通であることから活発化することが予想される。 ・当区で連携が進んでいない企業・NPO等の連携は、いわゆる「町会」の枠組みをこえた新たな地域活動につながることを期待される。
(2-1)スーパーバイザー、アドバイザー及び地域まちづくり支援員の体制にかかる提案内容	今年度より、支援員4名のうち2名が新人にかわったことから、アドバイザー・支援員でフォローをするものの、支援員としても新人であったため、地域要望に応えることができない状況があると聞いており、一層の支援充実策を検討する必要がある。
(2-2)フォロー(バックアップ)体制等にかかる提案内容	新任支援員へのフォローは当区まちづくりセンター内部だけで行うのではなく、適宜、担当地域のニーズに合わせ、適宜、本部から専門アドバイザーを派遣させるなど適切な人材を送り込むべきである。
(3)区のマネジメントに対応した取組にかかる提案内容	CB/SBに関して、本部からの専門アドバイザーの支援は、とりわけ新任支援員の担当地域で必要と考える。

4 区の方針・戦略を踏まえた今年度の重点支援策(取組)(5つ以内)

支援策(取組)名称	支援策(取組)に対する評価及び意見
地域活動協議会の情報発信などの支援	単に広報紙の発行の回数を望むのではなく、内容の豊富化、深化が図れるように、専門スタッフなどによる継続的な支援が必要。
防災に対する住民意識の向上	防災に関する取り組みは、地域住民にとって共通の関心事であり、地域活動協議会との貴重な接点であると考えられることから、防災訓練等への参加が担い手の発掘につながる仕組みを検討されたい。
さまざまな活動主体が互いに連携して活動する支援	地域活動協議会構成団体以外の外部団体との新規事業の実施は、「地域の活性化をするには重要」というのは理解できるが、それ自体が目的ではなく、活動の中で必然的に行われるものと考えられ、地域への過度な負担にならないように取り組むこと。

5 現時点での支援の実施状況

項目	評価及び意見
----	--------

<p>(1)現時点での支援の実施状況 (目標の進捗状況)</p>	<ul style="list-style-type: none">・「運営状況 様式5-1、5-2」では着実に進展しているが、先日区役所で実施したヒヤリングの結果、各項目では計れない地域差があると認識しており、16地域の進捗度合いに差が生じているのはやむを得ないが、区全体の底上げができるよう支援されたい。・活動を活発化させるうえで大きな効果があると考えられる「部会会議」の開催は7地域で実施できており、これまでの支援の成果と考える。・SNSによる広報の全地域立ち上げに続き、広報紙の発行支援に取り組んだ結果、発行地域が9地域から12地域に増加したことは評価できる。
<p>(2)上記を受けた、年度後半の支援についての考え</p>	<ul style="list-style-type: none">・今年度の各地域活動協議会総会では、地域振興会の役員改選の時期でもあり、多くの役員交代があったことから、改めて各役員をはじめ従事者にも地域活動協議会への理解を深めておく必要があり、ワークショップの実施は適切と考える。・「部会会議」の開催地域数を増やすよう支援を進めることも適切と考える。・「子ども食堂」の取り組みをCBとしてとらえるのか、それとも福祉目的なのか、対象を明確にしたうえで事業計画を立てるよう支援すべきと考える。